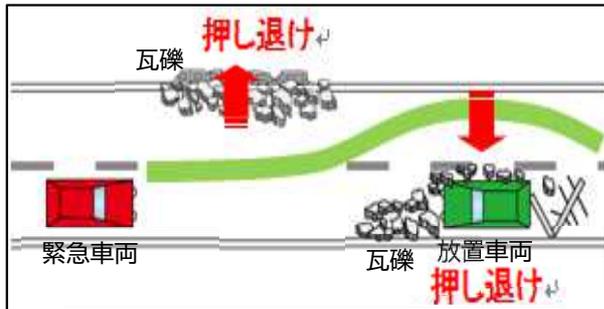


「熊本県道路啓開計画」について

道路啓開とは…緊急車両等の通行を確保するため、最低限の瓦礫処理や放置車両の移動等を行い、救助・救援ルートを確保すること

大規模地震時における初期対応を円滑に行うため、道路啓開が発災後迅速に進められるよう、道路啓開の手順・体制等を定めた「熊本県道路啓開計画」を12月末に策定。



道路啓開のイメージ



熊本地震時に道路が塞がれた状況（益城町）

1 道路啓開候補ルートの設定

- 県内で甚大な被害が想定される6つの地震に対して、優先的に啓開すべき道路を選定するため、道路啓開候補ルート（被災地内ルート、支援ルート）を設定。

【想定される地震】

- ①布田川・日奈久断層帯 ②別府・万年山断層帯 ③人吉盆地南縁断層 ④出水断層帯
- ⑤雲仙断層群(南東部) ⑥南海トラフ

2 道路啓開作業

- 発災後72時間以内に道路啓開を完了することを目的にタイムラインを設定。道路啓開に係る連絡体制・実施方法・留意事項等について整理。

【道路啓開タイムライン】

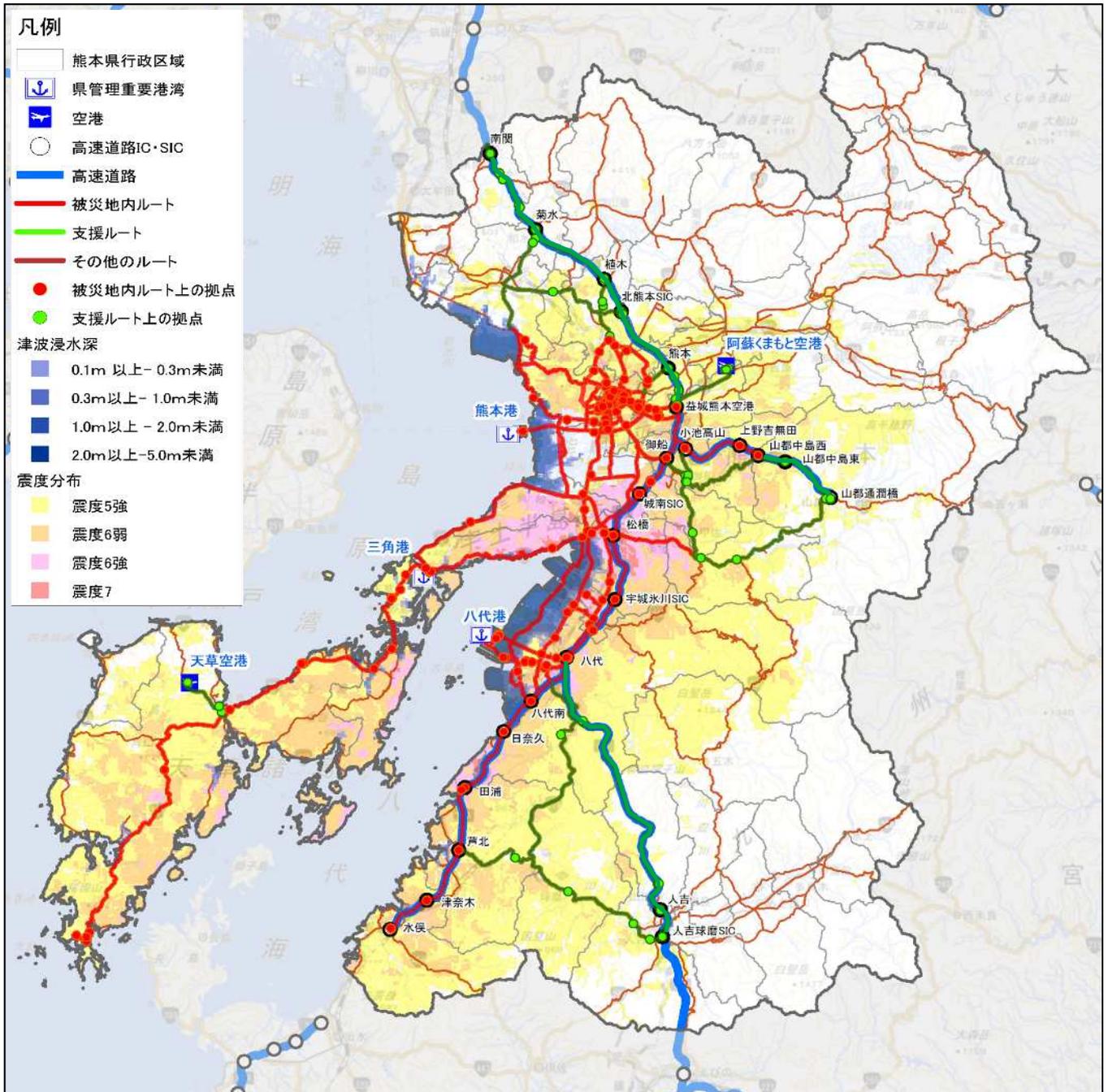
フェーズ	目安	熊本県 災対本部	熊本県 道路班	熊本河内 八代河内	NEXCO	熊本市 市町村	建設業 協会本部	警察	自衛隊	消防	電気・ 通信	ガス	
初動体制 確立	~0.5h	参集、連絡体制の構築、地震・津波情報収集 (震度6弱以上の場合、自動設置、道路啓開調査を開始)(津波注意報、警報発令中は浸水想定区間は対象外)											
道路啓開 調査	~7h	緊急点検・被災情報の整理		緊急点検支援			救助・救援等の 災害対応			緊急点検・被災情報の把握			
啓開ルート 決定	~12h	被害情報の共有											
		啓開ルートの調整						緊急交通路 指定					
		被害情報の集約		啓開ルートの共有		啓開体制の準備							
道路啓開 作業	~72h	啓開ルートの指示		啓開作業準備			区間指定 確認						
		災害対策基本法76条の6に基づく区間指定		道路管理者による通行規制			通知						
		道路啓開作業の実施						現場で連携			現地での 対応		
		作業情報の集約		現場で連携			現地の要請 に基づく 支援			現地での 救命			
		電線等の撤去											
													道路啓開作業の完了(72時間以内での完了を目標)

3 今後の進め方

- 県総合防災訓練などを活用して、定期的に道路啓開訓練を実施。
- 緊急輸送道路ネットワーク計画の見直し等を踏まえ、適宜、本計画の改定を実施。

【道路啓開候補ルート図】

布田川・日奈久断層帯(県央地域(熊本市:震度7)を中心に被害が広域かつ甚大)の場合



道路啓開候補ルート

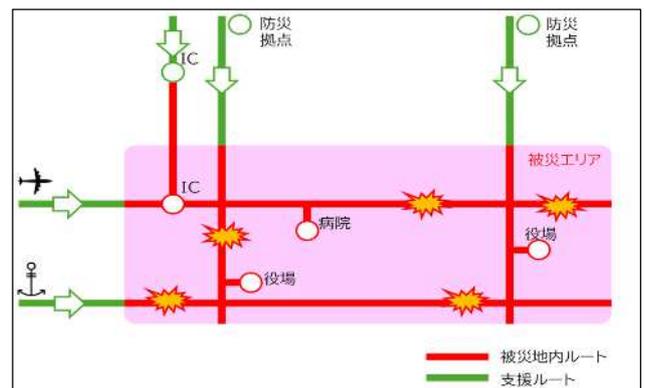
被災地内ルート

被災地エリア内*の防災拠点等を接続するルート

※震度6弱以上の地域内、津波浸水想定区域内の区域

支援ルート

被災地エリア内へアクセスするための主要幹線ルート



道路啓開候補ルート設定のイメージ

復興まちづくりの進捗状況について

【平成28年熊本地震】益城町における復興まちづくり

① 熊本高森線の4車線化事業について

<現在の状況> (令和7年2月末時点)

- 用地は、令和6年9月迄に全て取得完了
- 起点側(熊本市側)から惣領交差点迄の約1.6km区間を4車線で供用済
- 現在、惣領交差点から終点の寺迫交差点迄の約2.2km区間[※]で工事を実施中

※)土地区画整理事業により整備する約0.6km区間を含む

用地	地権者数	270人
	契約済	270人 (100%)
工事 (車道部)	全体延長	3,167m
	着手済	2,736m (86.4%)
	供用済	1,600m (50.5%)
工事 (歩道部)	全体延長	6,334m
	着手済	6,030m (95.2%)
	供用済	4,293m (67.8%)

(事業期間:平成28年度~令和7年度)

<今後の予定>

☆令和7年度中の全線供用に向けて、引き続き工事を推進

(参考)



4車線での供用状況



4車線化工事の状況

裏面へ

②益城中央被災市街地復興土地区画整理事業について

<現在の状況> (令和7年2月末時点)

- 仮換地は、9割を超える465画地を指定
- 宅地造成工事は、約7割で着手し、うち約5割は権利者へ引渡し済
- 事業区域内では、益城町が役場南側で交通広場を整備中(来月供用予定)

仮換地	画地数	482 画地
	指定済	465 画地 (96.5%)
宅地造成工事	画地数	482 画地
	着手済	316 画地 (65.6%)
	引渡済	218 画地 (45.2%)

(事業期間:平成30年度~令和9年度)

<今後の予定>

- ☆今月18日、残る 17 画地の仮換地指定(案)を土地区画整理審議会に諮問予定
- ☆令和9年度の事業完了に向けて、計画的に事業を推進

(参考)



【令和2年7月豪雨】人吉市における復興まちづくり

③青井被災市街地復興土地区画整理事業について

<現在の状況> (令和7年2月末時点)

- 仮換地は、令和6年11月に全て指定完了
- 宅地造成工事は、隣接する国道445号区画道路と合せて整備を進めており、これまでに約5割を着手

仮換地	画地数	107 画地
	指定済	107 画地 (100.0%)
宅地造成工事	画地数	107 画地
	着手済	49 画地 (45.8%)
	引渡済	0 画地 (0.0%)

(事業期間:令和4年度~令和10年度)

<今後の予定>

- ☆令和10年度の事業完了に向けて、計画的に事業を推進

(参考)



渋滞解消推進本部の取組みについて

令和7年（2025年）3月14日

熊本県都市計画課

熊本都市圏の渋滞対策

渋滞解消推進本部について

熊本都市圏市町とのトップ会談

熊本市トップ会談 (令和6年7月18日)	熊本県・熊本市調整会議 (令和6年8月19日)
<p>■県市の合意事項</p> <ul style="list-style-type: none">・都市圏渋滞における課題や取組みの方向性について意見交換を実施。・県市が共通の目標のもと、国とも連携しながら、渋滞解消に取り組んでいくことを確認。・「自動車1割削減、渋滞半減、公共交通2倍」との目標を掲げる。	<p>■県市の合意事項</p> <ul style="list-style-type: none">・熊本市東部・北東部エリアをターゲットに、交差点改良や公共交通への利用促進に向けた取組みを実施し、年内を目途に、短期対策の具体箇所、近隣自治体を含めた渋滞対策の方向性等を示す。・9月2日から30日まで、県・市合同で時差出勤等の取組みを推進する。

嘉島町トップ会談 (令和6年9月11日)	菊陽町トップ会談 (令和6年9月11日)	合志市トップ会談 (令和6年10月3日)	大津町トップ会談 (令和6年10月9日)	益城町トップ会談 (令和6年10月9日)
<p>■町意見</p> <ul style="list-style-type: none">・町西側の公共交通が脆弱・幹線道路の混雑・幹線道路から町道への通り抜け交通が多い・道路ネットワークが脆弱	<p>■町意見</p> <ul style="list-style-type: none">・幹線道路の混雑・主要な交差点の混雑・通勤バス等の定時性確保・JR豊肥線の機能強化	<p>■市意見</p> <ul style="list-style-type: none">・幹線道路の混雑・交通規制による渋滞対策・公共交通への利用転換・熊本電鉄の機能強化	<p>■町意見</p> <ul style="list-style-type: none">・幹線道路の混雑・主要な交差点の混雑・アクセス鉄道の整備と併せた道路整備・JR豊肥線の機能強化	<p>■町意見</p> <ul style="list-style-type: none">・幹線道路の混雑・主要な交差点の混雑・空港へのアクセス改善・企業や宅地開発による交通量の増加への懸念

熊本都市圏の渋滞対策

渋滞対策の方向性

県市で取り組む**道路施策**

～車の『流れ』を良くする取組み～

加速化対策(短期): ~3年

交差点改良や信号制御の最適化 30箇所

市内)主要渋滞箇所 8か所及びその周辺3か所 < 8/174(約 5%) >
市外)主要渋滞箇所 16か所及びその周辺3か所 < 16/ 52(約30%) >

■交差点改良や信号制御の最適化等の実施

<都市圏東部エリア> 14箇所:熊本益城大津線 など
<セミコン周辺エリア> 16箇所:大津植木線 など

■バスベイの整備による交通の円滑化

・熊本菊陽線など(10箇所)

■道路ネットワーク整備の着実な推進

・熊本西環状道路(池上工区) など

抜本対策(中期): 4~10年

主要渋滞箇所226箇所のうち約80箇所の改善に向け
取組みを強力に推進

■道路ネットワーク整備の着実な推進

・中九州横断道路、熊本西環状道路、国道443号 など

■交差点改良や信号制御の最適化等の実施

・熊本空港線 他

■車から自転車などへの転換

・自転車・歩行者空間の整備

抜本対策(長期): 11年~

広域道路ネットワークの構築

・熊本都市圏3連絡道路など

県市で取り組む**公共交通施策**

～車から公共交通への『転換』を促す取組み～

加速化対策(短期): ~3年

年間利用者数

路線バス)現状(2023年) 2,449万人/年→目標(2027年) 3,000万人/年
市電)現状(2023年) 1,009万人/年→目標(2027年) 1,170万人/年

■公共交通の利便性向上及び利用促進

・利用促進キャンペーン、運転士不足対策 など

■公共交通の輸送力強化と基盤整備

・肥本線の増便・増結や駅施設の改良整備 など

抜本対策(中期): 4~10年

公共交通分担率*を2倍にする

■公共交通の輸送力強化と基盤整備

・「交通連合」の実現、空港アクセス鉄道整備など

抜本対策(長期)

持続可能な公共交通の維持

県市で取り組む**その他施策**

～ピーク時の交通を『分散』する取組み～

加速化対策(短期): ~3年

・1年以内に1万人規模の取組み ・時差出勤等に取り組む企業200社

■集中する“時間”の分散

・官公庁や民間企業の時差出勤・在宅勤務を推進
※実施企業の宣言や認定制度等

■集中する“場所”の分散

・既存道路ネットワークの利活用



都市交通マスタープランの策定にあたっての 中間報告（概要）

調査結果等から見える都市圏交通の現状について

令和7年（2025年）3月14日

熊本県都市計画課

都市圏交通の現状について

1. 前回調査時（H24:2012）から今回調査時（R5:2023）の変化

（1）外出行動の変容

- ・ 外出する人の割合の減少（88.5%→79.0%）
- ・ 1日の移動回数の減少（2.78回→2.23回）

（2）車依存の進行

- ・ 移動する際に自動車を選択する割合の増加(64.4%→67.3%)
- ・ 特に高齢者においてその割合の増加が顕著(61.8%→74.2%)

（3）公共交通のサービス低下・利用低迷

- ・ 運行サービス低下(バス:-27%,市電:-15%)、利用者数減少(バス:-27%,市電:-2%)
- ・ JRの利用者はコロナ禍以前より増加、近年は混雑率100%超
- ・ 熊本電鉄は運行サービスは維持しているが、利用は低迷

（4）都市圏北東部の急速な開発

- ・ 都市圏北東部(菊池市,合志市,大津,菊陽町)居住人口の増加(+5.2%)
- ・ 人口増加に追い付かない交通インフラ

（5）慢性化する交通渋滞

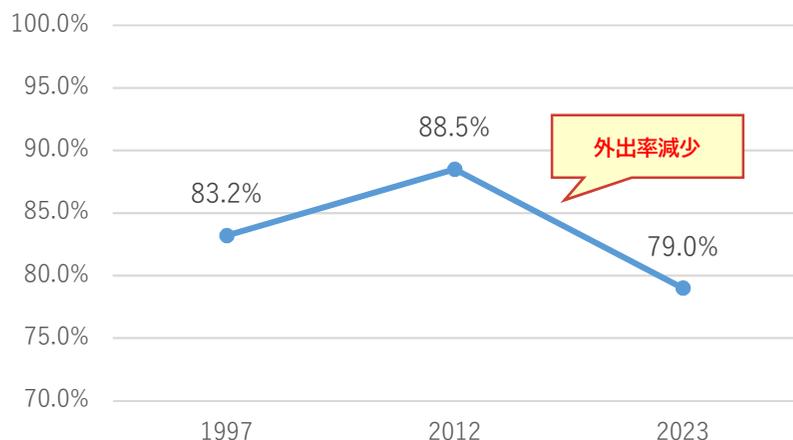
- ・ 集中する朝ピーク交通（朝ピーク率12.0%→14.3%）
- ・ 朝ピークに重なる送迎交通(全体の約7%)

都市圏交通の現状について

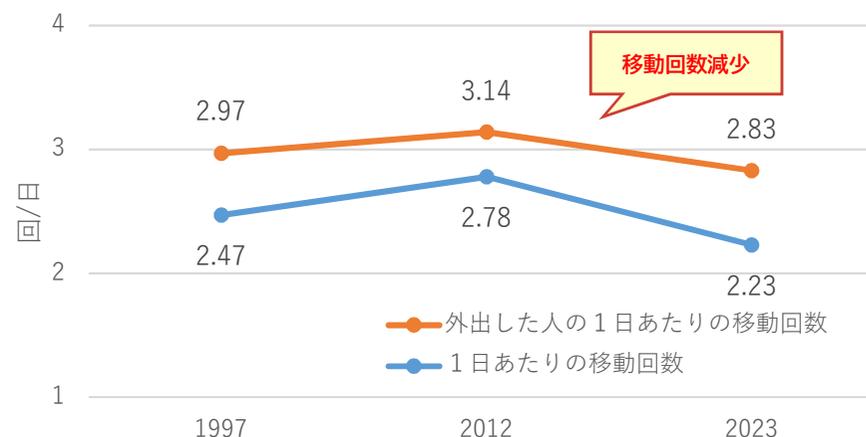
(1) 外出行動の変容

- ・外出率、移動回数ともに減少している。
- ・コロナ禍の影響やインターネットの普及などを理由に外出が減少している。

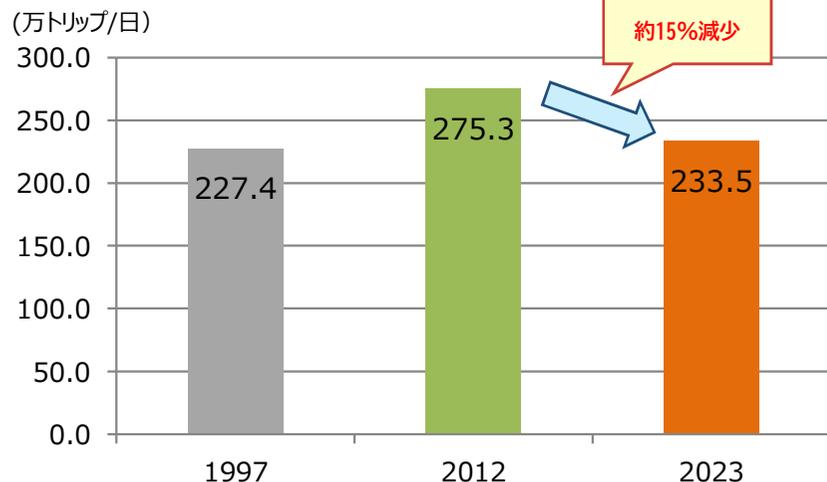
■ 外出率（1日1回は家から出かける人の割合）



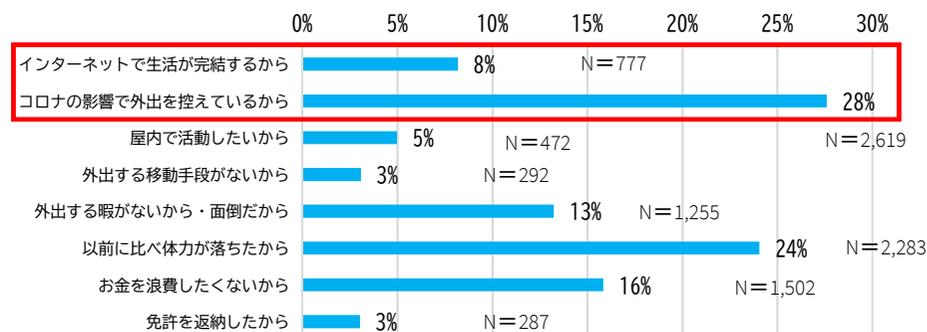
■ 移動回数（1人が1日に移動する平均回数）



■ 総トリップ数（都市圏全体の累計移動回数）



■ 外出が減った理由

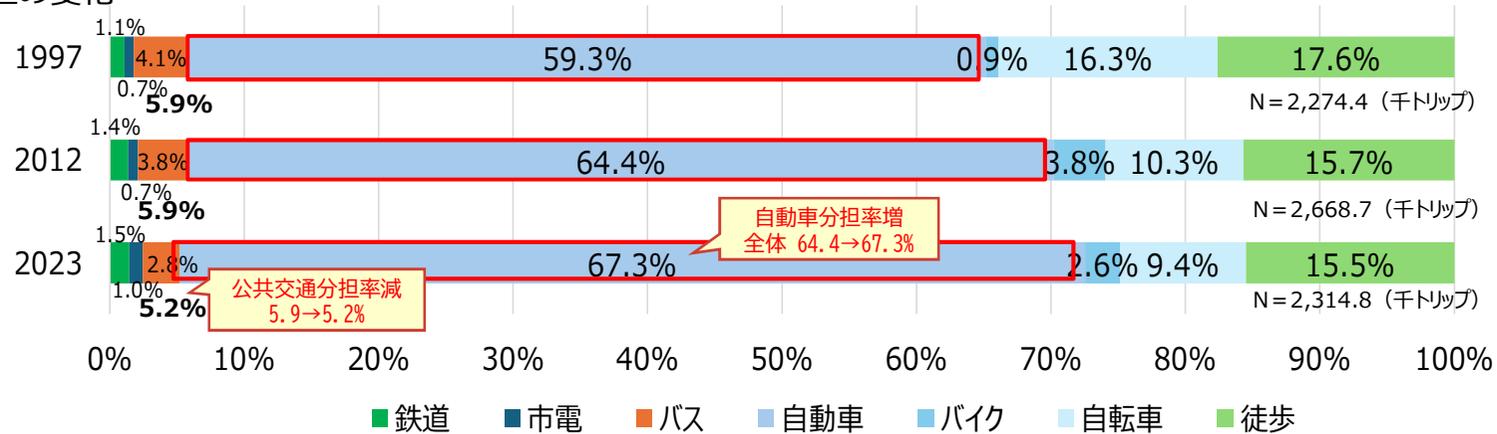


都市圏交通の現状について

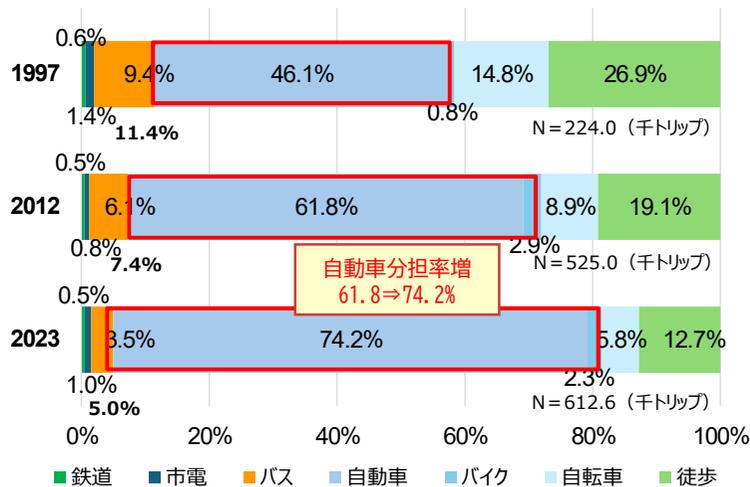
(2) 車依存の進行

- ・自動車分担率は64.4%から67.3%に増加、公共交通分担率は5.9%から5.2%に減少している。
- ・65歳以上の高齢者の自動車分担率が61.8%から74.2%と大きく増加している。
- ・免許保有率も高齢者において増加している。

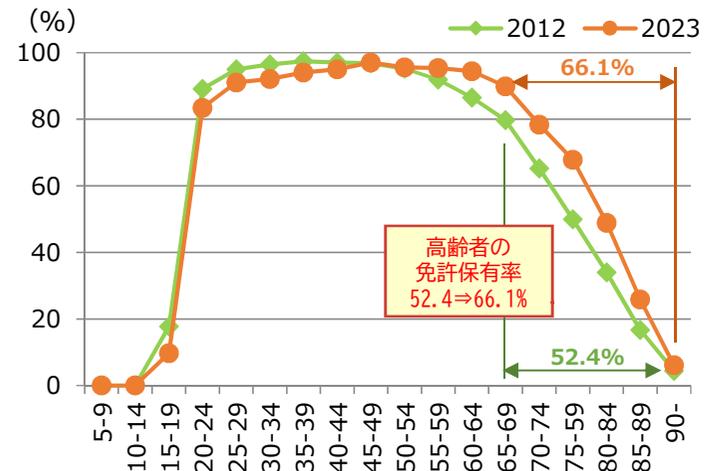
■ 交通手段分担の変化



■ 65歳以上の交通手段分担の変化



■ 年齢階層別 免許保有率



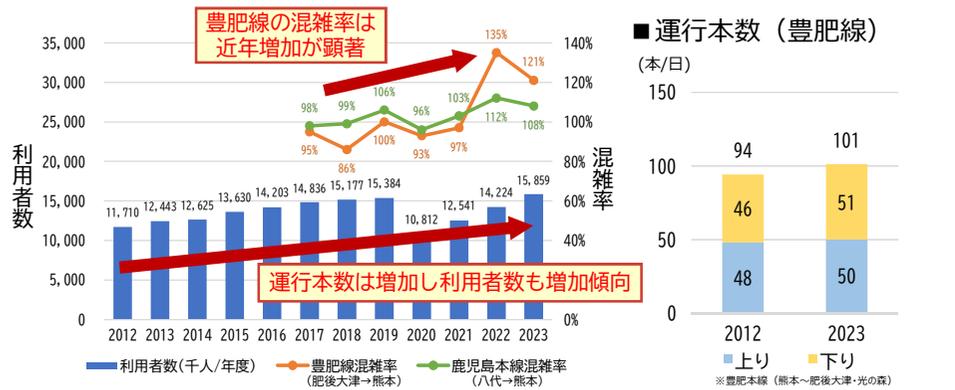
都市圏交通の現状について

(3) 公共交通のサービス低下・利用低迷

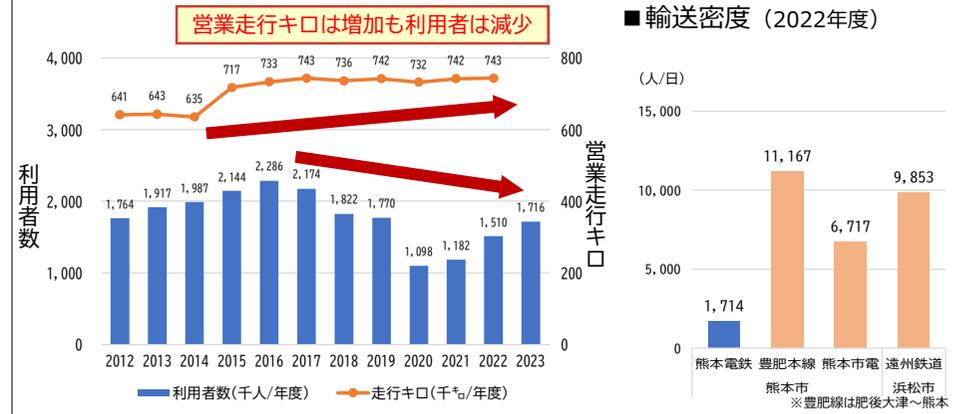
- ・JRは、利用者数は増加傾向にあり、豊肥本線の近年の混雑率の増加が顕著。
- ・熊本電鉄は、運行サービスは維持されているが、輸送密度は、他鉄軌道に比べて少ない。
- ・市電は、利用者数は維持されているが、2020年以降の運行サービスは低下傾向。
- ・バスは、前回調査時から約3割の利用者減少・運行サービス低下。

JR 利用者: 15,859千人 **+35%** 運行本数: 101本 **+7%**

※豊肥本線 (熊本～肥後大津・光の森)



熊本電鉄 利用者: 1,716千人 **-3%** 走行^キ: 743千^キ/年 **+16%**



市電 利用者: 10,088千人 **-2%** 走行^キ: 1,540千^キ/年 **-15%**



バス 利用者: 23,283千人 **-27%** 走行^キ: 2,356千^キ/年 **-27%**

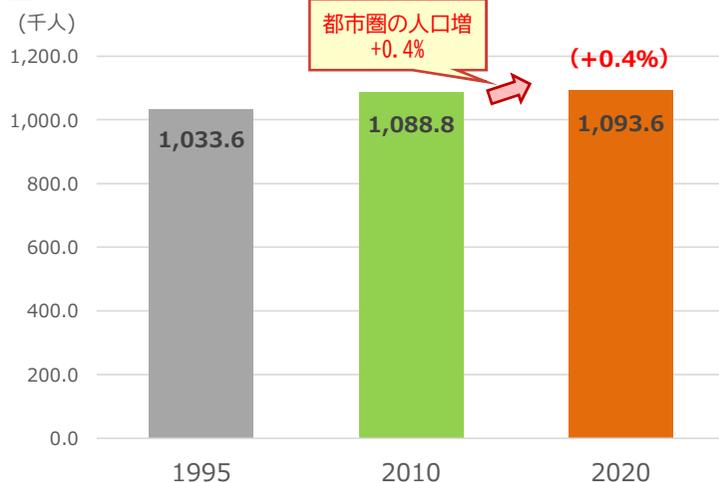


都市圏交通の現状について

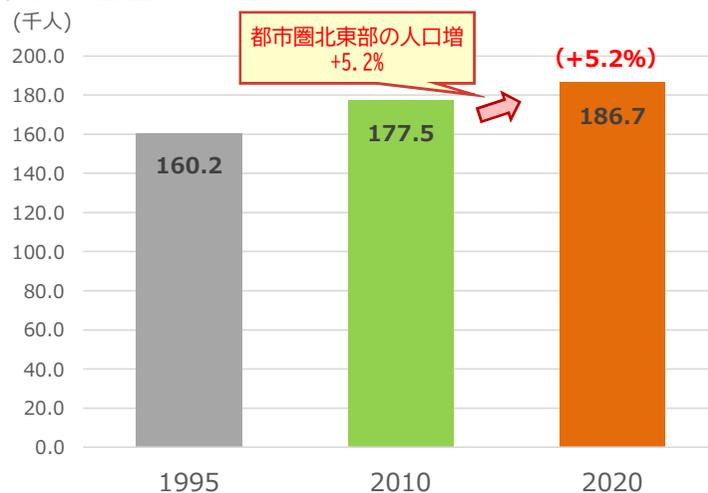
(4) 都市圏北東部の急速な開発

- 都市圏北東部（菊池市、合志市、大津町、菊陽町）の居住人口は、都市圏全体よりも増加している。
- 居住人口が増加しているものの、道路整備が追い付いていない地域も確認される。

■ 都市圏居住人口



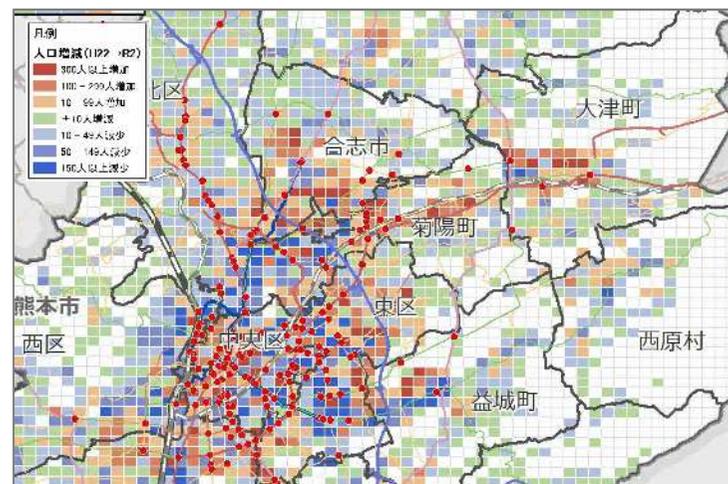
■ 都市圏北東部の居住人口



資料：国勢調査

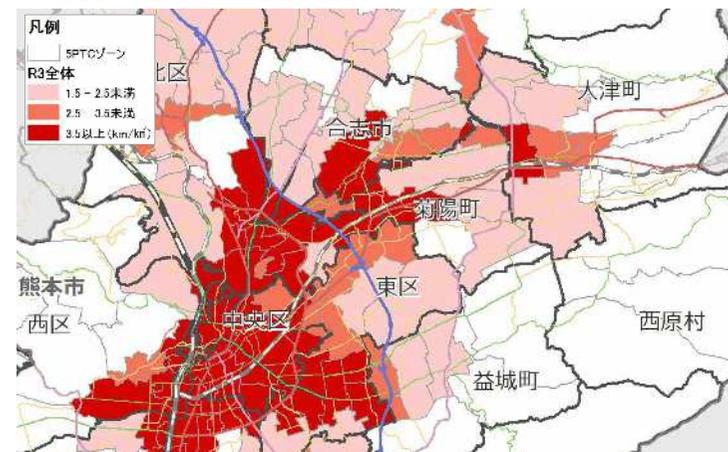
※都市圏北東部：菊池市、合志市、大津町、菊陽町

■ 居住人口増減



資料：国勢調査

■ 道路網密度



(資料) 都市計画基礎調査・全国道路街路交通情勢調査等より整理
道路幅員5.5m以上の改良済延長を対象に算出

都市圏交通の現状について

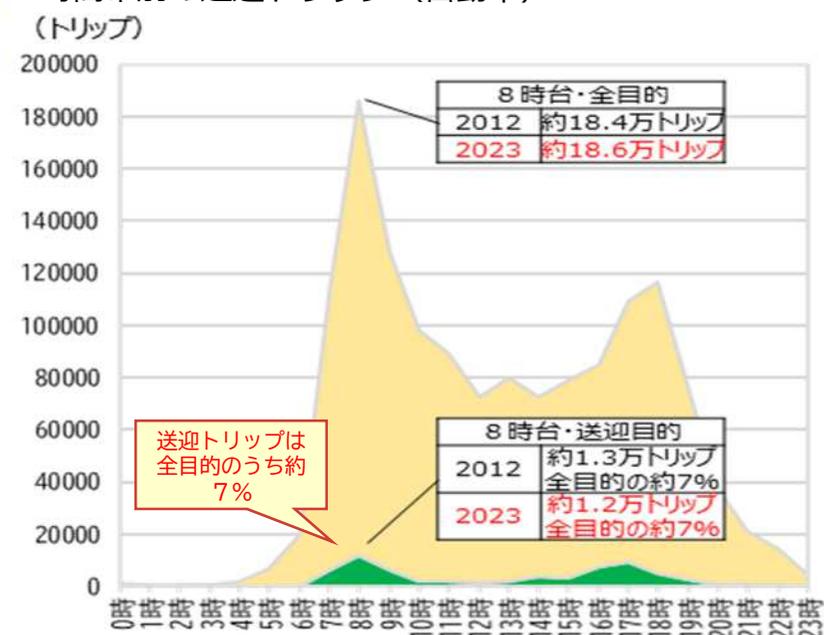
(5) 慢性化する交通渋滞

- ・朝ピーク率（総トリップにおける8時台のトリップの割合）が前回よりも上昇している。
- ・通勤や業務の目的において、朝ピークのトリップが多く、交通渋滞の要因となっていることが予想される。
- ・送迎（主に通学、通勤、私用目的）についても、朝ピークにおいて全体の約7%を占めている。

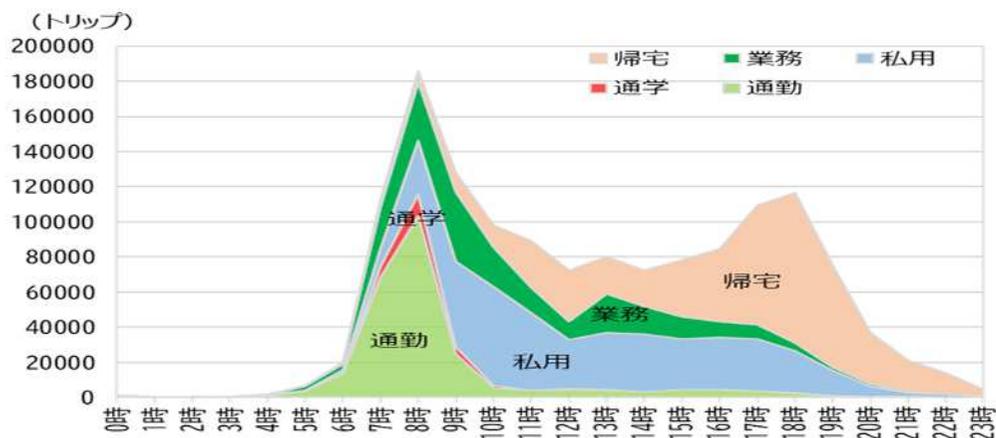
■ 移動時間帯の推移（着時刻分布・全手段）



■ 時間帯別の送迎トリップ（自動車）



■ 時間帯別の全目的トリップ（自動車）



今後の進め方

1. 都市交通マスタープラン策定までのスケジュール

パーソントリップ調査から見える現状・課題を踏まえ、今後、詳細な分析を行い、学識者等からなる熊本都市圏総合交通計画協議会に諮りながら、課題解決のための施策の提案につなげる。

また、土地利用の計画（熊本都市計画区域マスタープラン等）と整合を図りながら将来の交通計画である都市交通マスタープランを策定する。



熊本県民総合運動公園の駐車場整備について

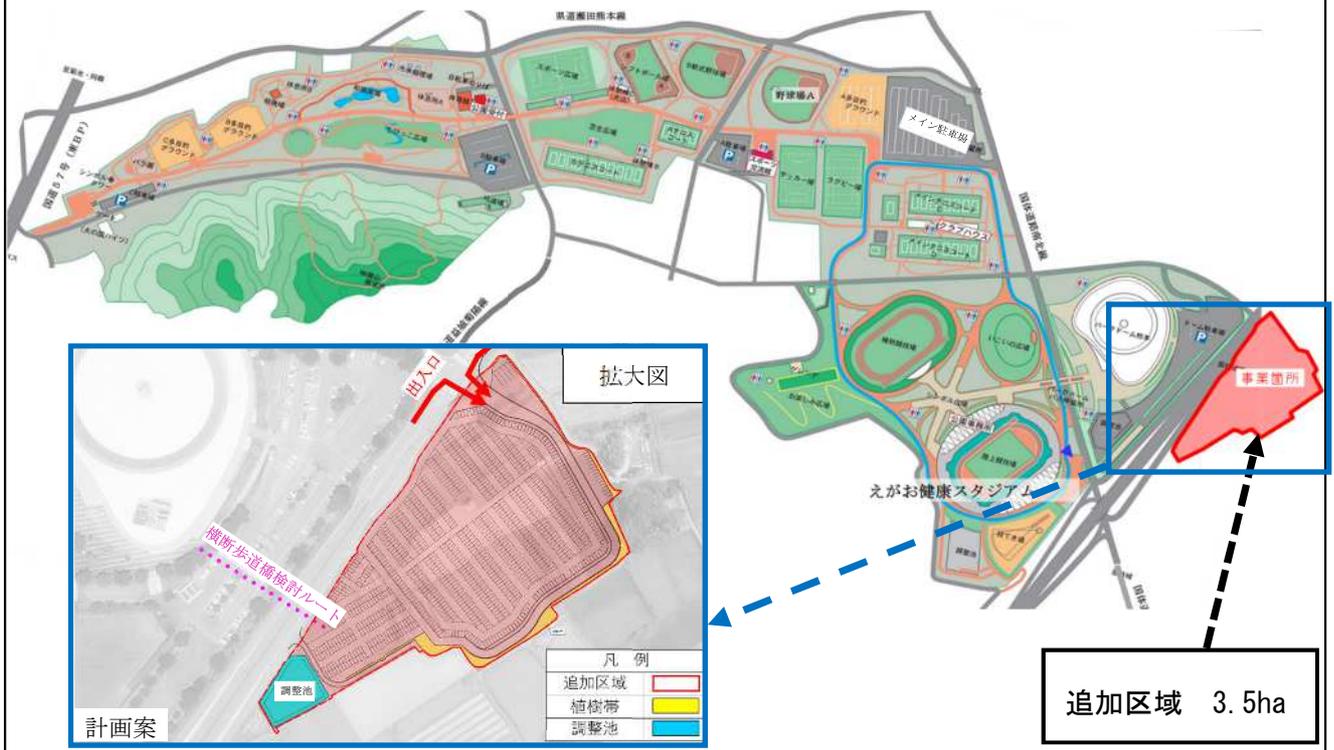
【駐車場規模について】

- 熊本県民総合運動公園では、これまで実施してきたアクセス改善対策実証事業の結果を踏まえ、スタジアムの近くに新たに1,000台規模（約2,400人分相当）の駐車場の増設に取り組みます。
- このことにより、来園者駐車場をこれまでの約3,400台の1.3倍となる約4,400台確保することや駐車場の分散化により、駐車場不足の改善や交通混雑の緩和を図ります。

【今後の手続きについて】

- これまでに、都市計画法に基づく駐車場区域を追加する都市計画案の住民説明会や公告・縦覧が終了したところであり、年度内の熊本市都市計画審議会への付議を予定しています。
- 来年度、都市計画決定や事業認可の取得後、速やかな事業着手を目指し取り組んで参ります。

熊本県民総合運動公園計画変更概要図



緑の流域治水の推進と五木村・相良村の振興について

1 「緑の流域治水」の主な取組状況

(1) 流水型ダム事業の方向性・進捗を確認する仕組み

・ 昨年12月7日に、流水型ダム事業の方向性や進捗を確認する「仕組み」の第3回会議を開催。

構成員：県、九州地方整備局、球磨川流域市町村長、流域住民(市町村別、分野別)、有識者(河川工学、環境)

・ 会議では「新たな流水型ダムの環境影響の最小化に向けた取組み」「流域の森の現状や土砂・流木対策」について、流域住民と確認。

・ 会議の内容及び結果については、県ホームページに掲載するとともに、1月25日に新聞広報を実施し、広く県民に周知。



12/7 「仕組み」第3回会議



川辺川の流水型ダムの完成イメージ



1/25 熊本日日新聞での見開き広報

(2) 「緑の流域治水」に関する流域市町村職員研修会について

・ 住民に一番身近な行政機関である流域の市町村職員が、流水型ダムを含む「緑の流域治水」の各取組みを自分事として捉え、更に理解を深めることができるよう、流域市町村職員研修会を実施。

・ 昨年9月4日の人吉市に続き、12月18日に球磨村、2月10日に八代市で開催。国、県から、管理する河川での具体的な治水対策の進捗状況や新たな流水型ダムの構造・環境影響に対する工夫等について説明。



12/18 球磨村職員研修会



2/10 八代市職員研修会

(3) 球磨川水系県管理河川について

- ・人吉市の御溝川の二次放水路整備工事について、3月8日に完成式を開催。
- ・あさぎり町の田頭川の河川整備工事について、3月8日に着工式を開催。
- ・その他、河川改修、宅地かさ上げ、遊水機能を有する土地の確保・保全など12河川で事業推進中。

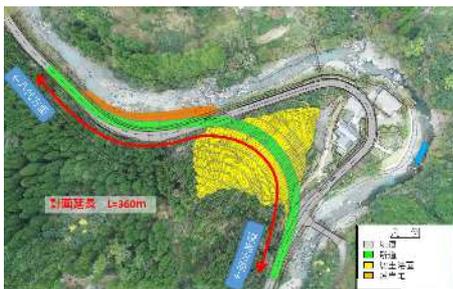


御溝川二次放水路完成（人吉市）

2. 五木村・相良村の振興について

<五木村>

- ・1月26日、県道宮原五木線道路改良工事の着工式を開催。急カーブ、見通し不良、幅員狭小区間を、より安全・安心で円滑な通行が確保できるよう改良。
- ・2月16日、村主催の村民説明会開催。参加した住民約40人に対し、国・県・村から「流水型ダムを前提とした振興の取組み」「ダム関連事業の進捗」等について説明。
- ・3月3日、東地区の区長らで組織される「五木村東地区まちづくりランドデザイン協議会」が、同地区の振興に関し議論してきた内容を取りまとめた提案書を村長へ提出。
3月15日には、同様に宮園周辺地域の区長らで組織される「宮園周辺地域振興協議会」が地域住民に対する報告会を開催予定。



道路改良概要（五木村椿工区）



2/16 五木村村民説明会



3/3 五木村東地区まちづくり
ランドデザイン協議会

<相良村>

- ・1月26日、川辺川の河川整備関係工事の着工式を開催。令和17年度(2035年度)の流水型ダム完成までを目指して川辺川の河川整備を進めるとともに、大雨の際に冠水する国道445号上下坂地区の道路嵩上げも一体的に実施。
- ・現在、相良村が県の地域づくり夢チャレンジ推進事業を活用し、村の魅力を発信する特産品を開発中。村内を流れる川辺川の湧き水と、村の特産品であるお茶の葉を使用したクラフトビールを試験製造。熊本市内での試作品配布会等を実施中。



1/26 川辺川河川整備関係工事着工式（相良村）



さがらクラフトビール

- ・引き続き、国・県・村が一体となり、村民の皆様の御意見を十分お聴きしながら、目に見える形で着実に両村の振興を推進していく。